

2017年5月期 第2四半期 決算概要

- エキスパートサービス（人材派遣）、BPO事業（インソーシング、アウトソーシング）を中心に多くのセグメントで増収となり、売上高は136,867百万円（前年同期比+7.3%）
売上総利益も27,000百万円（+6.2%）と増益
- 販管費において退職給付費用が前年同期比で大幅に増加したこと等により、
営業利益794百万円（△25.9%）、経常利益759百万円（△22.3%）
親会社株主に帰属する四半期純損失も△816百万円と減益

1. 第2四半期連結業績（2016年6月1日～11月30日）

（百万円）

	2016年5月期2Q	2017年5月期2Q	増減	増減率
売上高	127,602	136,867	+9,264	+7.3%
売上総利益 (売上比)	25,435 19.9%	27,000 19.7%	+1,564 △0.2pt	+6.2%
販売費及び一般管理費 (売上比)	24,362 19.1%	26,205 19.1%	+1,842 +0.0pt	+7.6%
営業利益 (売上比)	1,072 0.8%	794 0.6%	△277 △0.2pt	△25.9%
経常利益 (売上比)	977 0.8%	759 0.6%	△217 △0.2pt	△22.3%
親会社株主に帰属する四半期純損失 (売上比)	△334 -	△816 -	△482 -	-

2. セグメント別連結業績（セグメント間取引消去前）

（百万円）

	売上高	前年同期比		営業損益	前年同期比	
エキスパートサービス（人材派遣）	71,469	+5,760	+8.8%	436	△319	△42.2%
インソーシング（委託・請負）	36,082	+1,706	+5.0%			
HRコンサルティング、教育・研修、その他	2,918	△6	△0.2%			
グローバルソーシング（海外人材サービス）	3,067	+257	+9.2%			
キャリアソリューション（人材紹介、再就職支援）	7,178	△1,089	△13.2%	704	△924	△56.7%
アウトソーシング	14,545	+2,592	+21.7%	2,482	+1,000	+67.5%
ライフソリューション、パブリックソリューション	3,107	+372	+13.6%	△161	+195	-
消去又は全社	△1,500	△329	-	△2,667	△230	-
合計	136,867	+9,264	+7.3%	794	△277	△25.9%

主要セグメントの増減理由

エキスパートサービス	幅広い業界で受注が増加し、取引企業数も増加。(株)パソナ OGXA ^{*1} などのM&Aも寄与。外国語や経理など専門事務の他、営業職も伸長。サイバーセキュリティやデジタルマーケティング等の人材育成も開始。IT活用により効率化が進み長期稼働者、新規登録者増加につながる。
インソーシング	健康経営を推進する企業の健康管理室の受託など新しい動きや、パブリック分野でも1カ所で複数の行政サービスを提供するワンストップ窓口の導入が進み、行政事務代行も引き続き拡大。U・I・Jターンの支援、シティプロモーション等、地方創生事業の受託も増加。
グローバルソーシング	前期に子会社化したインドネシアのDGS ^{*2} で日系クライアントが大幅に増加し人材派遣が増収。RPO(採用代行)やペイロール等のアウトソーシングも寄与。為替のマイナス影響を吸収し、増収。
キャリアソリューション	人材紹介は新規求人が高水準で推移し成約数増加。第1四半期の基幹システム入れ替えに伴う一時的業務効率低下により増収幅は抑制。再就職支援は厳しい事業環境が続く。
アウトソーシング	福利厚生事業は導入企業数が順調に拡大。報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業も堅調。ヘルスケア事業の健診サービスや特定保健指導の実施件数も増加。

^{*1} (株)パソナが子会社化した大阪ガスエクセレントエージェンシー(株) ^{*2} PT. Dutagriya Sarana (デュータグリヤ サラナ)

3. 財政の状況

(百万円)

	2017年5月期 2Q末	前期末比		増減要因
		増減	増減率	
流動資産	51,846	△4,341	△7.7%	現金及び預金の減少 4,205 百万円、 受取手形及び売掛金の減少 480 百万円等
固定資産	28,671	△497	△1.7%	
資産合計	80,517	△4,839	△5.7%	
流動負債	43,136	△2,059	△4.6%	買掛金の減少 1,907 百万円、 未払金の減少 486 百万円、 未払消費税等の減少 330 百万円、 未払法人税等の減少 226 百万円等
固定負債	11,789	△1,636	△12.2%	
負債合計	54,925	△3,695	△6.3%	
純資産合計	25,591	△1,143	△4.3%	親会社株主に帰属する四半期純損失 816 百万円、 配当金の支払 447 百万円等
自己資本比率	22.1%	△0.1pt		

4. キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当期末残高 11,752 百万円

(百万円)

	2017年5月期 2Q末	増減	資金増減の主な内訳
営業活動による CF	△515	+4,404	増加は税金等調整前四半期純利益 724 百万円、 減価償却費 1,624 百万円、のれん償却額 487 百万円、 売上債権の減少 423 百万円 減少は営業債務の減少 1,247 百万円、 未払消費税等の減少 278 百万円、 法人税等の支払額 1,253 百万円等
投資活動による CF	△2,046	△1,549	減少は固定資産の取得による支出 1,248 百万円、 投資有価証券の取得による支出 213 百万円等
財務活動による CF	△1,961	△687	増加は短期借入金 2,050 百万円等、 減少は長期借入金の返済 2,546 百万円、 配当金の支払額 1,115 百万円等
フリーCF	△2,562	+2,854	

5. 2017年5月期（2016年6月1日～2017年5月31日）連結業績予想

2017年5月期の通期連結業績予想については、上期にインソーシングの先行投資等による一時的費用が発生したものの、新規案件は順調に増加しています。また下期については、引き続き再就職支援事業の市場は厳しさが続くものの、全体としては足元の人材ニーズが高まっており、今後も需要が見込まれることから、2016年7月15日に公表した通期連結業績予想を据え置きます。引き続きグループ連携と効率化を推進し、収益確保に努めてまいります。

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2017年5月期 業績予想	283,000	4,300	4,200	500
2016年5月期 実績	263,728	3,860	3,855	243
前期比増減率	+7.3%	+11.4%	+8.9%	+105.1%

四半期ごとの連結業績およびセグメント別業績データは <http://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。